

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

元長野オリンピック
冬季競技大会組織委員
会競技運営部長・島田
忠明さんの自治功勞に
よる瑞宝双光章の叙勲
受賞祝賀会が、8月下

旬、長野市内で開催さ
れた。島田さんは、昭和
43年長野県職員に採用
され、土木技術職員と
して活躍。大町建設事
務所長や長野県土木部
長などで大北地域の公
共事業に優れた行政手
腕を発揮された方だ。

祝賀会は、平成7年
から競技運営部長とし
て雪上・氷上の各種競
技運営の先頭に立ち、
さまざまな課題を一緒
に克服したメンバーと
の祝賀会だった。発起
人代表は、白馬村オリ
ンピック課の発足当初
から長野県より派遣の
塚田明さん。オリン
ピック課長補佐兼オリ
ンピック係長として長

野原やNAOCなどと
の調整、施設整備では
施設用地交渉に尽力、
環境アセスでも一般事
務職員として初めて業
務に携わるなど白馬村
でのオリンピック成功
の立役者の一人だ。3
年間の白馬勤務後から

地域の歩みと人間関係を 語り継ぐ大切さを知る

NAOCの施設整備や
大会運営で引き続き尽
力された方でもある。
発起人代表の挨拶で
「運営組織の中で、あ
らゆる課題、難問に直
面した時、的確かつス
ピーディーに部下職員
に指示をたす活躍」や

「真面目で、温情深く
優しい人柄」などを紹
介。滑降競技は、悪天
候により日程変更を余
儀なくされ現場関係者
の対応は壮絶な苦難の
連続だった。スケ
ジュール委員会での、
色々なケースの想定と

現場スタッフの対応の
素晴らしさを引き出し
た島田部長の、常に笑
顔を忘れず人に接した
お陰なのだろう。
祝賀会は、オリン
ピックから21年の歳月
が過ぎ、当時部署が異
なり初めて会う人もい

て、進行役の田中哲也
さんから現在の状況を
紹介するよう促され、
参加者の挨拶が始ま
る。オリンピック当時
の思いでは、各々溢れ
るばかりの記憶が満
載。熱く語る逸話に、
参加者が相槌を打ちな
がら大いに盛り上がり
全員が話し終えると、
会終了時間ギリギリ
に。島田さんの思い
出は、やはりアルペン
男子滑降種目のスター
ト地点だ。1680m以
下で環境を重視するNA
OCと、1800m以
下で世界に通用するコース
を切望する競技団体や
地元白馬村関係者との
調整難航が今でも語り

草だ。最終的に176
5mの合意は、内容的
に自然保護重視に。現
在国際的にも評価さ
れ、外国からのスキー
ヤーらが訪れている成
果も島田さんの熱き取
り組みのお陰なのだろ
う。
(NPO法人信州地
域社会フォーラム理
事・白馬村森上)



オリンピック成功の為に大変な日々を
共に経験したメンバー